資料６

2019年度 流域圏担い手づくり事例集について

‘19.6.22　豊田市矢作川研究所　洲崎燈子

【2019年度の活動案】

これまで、2013～2016年度にかけて4冊の「山村再生担い手作り事例集」を、2017～2018年度にかけて2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成するため、持続可能な流域作りに関わる102団体に取材を行ってきた。また、2017年度からは1年に1回、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催してきた（3回目は本日午後開催）。

事例集作成や交流会開催は一定の成果を生んだと考えられるが、今後の展開や事例集の活用法、どのように流域内交流の活性化につなげていくか、等の課題も見えてきた。そこで、7年目となる2019年度は事例集の作成を休止し、これまでの事例集作りの成果を振り返り、今後の方向性について考える年としたい。その成果を、懇談会9年間のまとめにも盛り込んでいきたい。

来年度の交流会を開催するかについては今後検討したい。

【確認事項】

事例集の増刷について

事例集事務局の戸田氏より、事例集の増刷をつくラッセル（「流域圏担い手づくり事例集Ⅱ」取材先）の中綴じ製本できるレーザープリンター複合機で行ってはどうかとの提案を頂いた。

＜メリット＞

・外注よりコストが削減される（1 冊あたりのコストが 600 円（税抜）程度に。外注すると 100 冊 120,000 円、50 冊 80,000 円ほどになる）。

・増刷代がつくラッセルの運営資金になる。

＜デメリット＞

・表紙も本文も同じ上質紙になる。

・中綴じなので背表紙がなくなる。